

製品名: ジーンキューブ® HQ MAI

1. 化学品及び会社情報

製品名: ジーンキューブ® HQ MAI
供給者の会社名称: 東洋紡株式会社
住所: 大阪市北区梅田一丁目13番1号 大阪梅田ツインタワーズ・サウス
担当部門: バイオ事業総括部
(TEL:06-6348-3335, FAX:06-6348-3833)
製品コード: QGAIS-548
推奨用途: 病原体核酸の検出
使用上の制限: 推奨用途以外の目的で使用しないでください

2. 危険有害性の要約

重要危険有害性及び影響
健康有害性: 酵素試薬に含まれるグリセロールには、皮膚刺激性、眼刺激性がある。
危険有害性の調査が十分でなく、取扱に注意する。

GHS分類	区分
急性毒性(経口)	区分に該当しない(区分外)
急性毒性(経皮)	区分に該当しない(区分外)
皮膚腐食性/刺激性	区分に該当しない(区分外)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分に該当しない(区分外)
水生環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない(区分外)
水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない(区分外)

GHSラベル要素
絵表示: 非該当
注意喚起語: 非該当
危険有害性情報: 該当しない

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物(水溶液)

成分及び濃度又は濃度範囲

酵素試薬

成分名称	含有量 wt%	CAS#	化審法	安衛法		化管法	毒劇法
			官報公示 番号	官報公示 番号	通知物質	指定物質	毒物劇物
DNAポリメラーゼ	非公開	なし	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当
デオキシアデノシン三リン酸 ナトリウム	非公開	1927-31-7	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当

安全データシート

SDS: 4655A
作成: 2023/07/28
改訂: 2025/7/3

製品名: ジーンキューブ® HQ MAI

デオキシシチジン三リン酸ナトリウム	非公開	102783-51-7	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当
デオキシグアノシン三リン酸ナトリウム	非公開	93919-41-6	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当
デオキシチミジン三リン酸ナトリウム	非公開	18423-43-3	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当
グリセリン	10未満	56-81-5	2-242	公表	非該当	非該当	非該当
ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル	0.1未満	9016-45-9	7-172	公表	非該当	規制濃度以下	非該当

プライマー・プローブ試薬

成分名称	含有量 wt%	CAS#	化審法	安衛法		化管法	毒劇法
			官報公示 番号	官報公示 番号	通知物質	指定物質	毒物劇物
DNA	非公開	なし	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当
ジメチルスルホキサイド	5	67-68-5	2-1553	公表	非該当	非該当	非該当

陽性コントロール溶液

成分名称	含有量 wt%	CAS#	化審法	安衛法		化管法	毒劇法
			官報公示 番号	官報公示 番号	通知物質	指定物質	毒物劇物
DNA	非公開	なし	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当

陰性コントロール溶液

成分名称	含有量 wt%	CAS#	化審法	安衛法		化管法	毒劇法
			官報公示 番号	官報公示 番号	通知物質	指定物質	毒物劇物
緩衝液	非公開	非公開	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当

4. 応急措置

吸入した場合:	直ちに新鮮な空気のある場所に移し、異常のある場合は医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合:	製品に触れた部分を多量の水および石鹸でよく洗う。 外観に変化があるか、痛みが続く場合には直ちに医師の診断を受ける。
眼に入った場合:	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受ける。
飲み込んだ場合:	飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 気分が悪いときは医師に連絡すること。
応急措置をする者の保護:	情報なし

製品名: ジーンキューブ® HQ MAI

5. 火災時の措置

消火剤:	水、二酸化炭素、泡消火剤、粉末消火剤
使ってはならない消火剤:	情報なし
特有の危険有害性:	情報なし
特有の消火方法:	消火作業は可能な限り風上から行う。
消火を行う者の保護:	大規模な火災の場合は保護衣、呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

環境に対する注意事項:	環境への放出を避けること。
封じ込め及び 浄化の方法及び機材:	こぼれた液体は乾いたペーパータオル等で拭き取る。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策:	マスク・手袋等の保護具を着用し、直接眼・皮膚に接触させない。
局所排気・全体換気:	特になし。
安全取扱い注意事項:	強酸化剤との接触は避ける。
接触回避:	炎・火花または高温体との接触を避ける。
衛生対策:	取扱い後は、手をよく洗う
保管	
安全な保管条件:	容器を密閉して2～8℃で保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策:	特になし。
保護具	
呼吸用保護具:	マスクなど呼吸用保護具着用が望ましい。
手の保護具:	保護手袋
眼の保護具:	必要に応じて保護眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具:	保護衣等

9. 物理的及び化学的性質

製品

製品名: ジーンキューブ® HQ MAI

外観	物理的状态:	全てのパーツは常温で液体。
	色:	酵素試薬、陽性コントロール溶液、陰性コントロール溶液は無色透明、プライマー・プローブ試薬は淡桃色
	臭い:	全てのパーツで臭いはほとんどない。
	臭いのしきい(閾)値:	データなし
	融点・凝固点:	データなし
	沸点又は初留点	データなし
	及び沸点範囲:	
	可燃性:	水溶液のため燃焼性はないと考えられる。
	爆発下限及び爆発上限	データなし
	／可燃限界:	
	引火点:	データなし
	自然発火点:	データなし
	分解温度:	データなし
	pH:	データなし
	粘度:	データなし
	動粘度:	データなし
	溶解度:	水: 可溶
	n-オクタノール／水	データなし
	分配係数:	
	蒸気圧:	データなし
	比重(密度):	データなし
	蒸気密度:	データなし
	蒸発速度:	データなし
	粒子特性:	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性:	通常の条件下では安定である。
化学的安定性:	常温では安定で、反応性はない。
危険有害反応可能性:	常温では安定で反応性に乏しい。
避けるべき条件:	高温、炎、火花
混触危険物質:	強酸化剤 還元剤
危険有害な分解生成物:	通常の使用時には発生しない。

11. 有害性情報

製品

急性毒性(経口):	区分に該当しない(区分外)
急性毒性(経皮):	区分に該当しない(区分外)

製品名: ジーンキューブ® HQ MAI

急性毒性（吸入）:	区分に該当しない（分類対象外）（気体） 区分に該当しない（分類対象外）（蒸気） 区分に該当しない（分類対象外）（粉塵・ミスト）
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:	区分に該当しない（区分外）
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性:	区分に該当しない（区分外）
呼吸器感作性:	分類できない
皮膚感作性:	分類できない
生殖細胞変異原性:	分類できない
発がん性:	分類できない
生殖毒性:	分類できない
特定標的臓器毒性、単回ばく露:	分類できない
特定標的臓器毒性、反復ばく露:	分類できない
誤えん有害性:	分類できない

成分

グリセリン

急性毒性（経口）:	区分に該当しない（区分外） LD50: 12600 mg/kg, LD50: 4090 mg/kg
急性毒性（経皮）:	分類できない
急性毒性（吸入）:	分類できない（気体） 分類できない（蒸気） 分類できない（粉塵・ミスト）
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:	分類できない
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性:	分類できない
呼吸器感作性:	分類できない
皮膚感作性:	分類できない
生殖細胞変異原性:	分類できない
発がん性:	分類できない
生殖毒性:	分類できない
特定標的臓器毒性、単回ばく露:	分類できない
特定標的臓器毒性、反復ばく露:	分類できない
誤えん有害性:	分類できない

ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル

製品名: ジーンキューブ® HQ MAI

急性毒性（経口）:

分類できない

動物への影響: データ不足のため分類できない。本物質はE0の付加モル数の違いにより鎖長が異なり、LD50値に著しい差がある。ラットのLD50値として、1,300 mg/kg (E0 10)、1,800 mg/kg (E0 9)、1,980 mg/kg (E0 6)、2,500 mg/kg (E0 15)、4,300 mg/kg (E0 4) (環境省リスク評価第5巻 (2006)) との報告があり、それぞれ区分4、区分4、区分4、区分外 (国連分類基準の区分5)、区分外 (国連分類基準の区分5) に該当する。なお、旧分類で用いられていたNITE初期リスク評価書 (2005) では、E0 2~15の場合のラットのLD50値として1,300~7,400 mg/kg、E0 20の場合のラットのLD50値として15,900 mg/kg との記載があり、区分4~区分外及び区分外に相当するが、これらの値のみでは区分を特定できないため分類することができない。

急性毒性（経皮）:

分類できない

動物への影響: データ不足のため分類できない。本物質はE0の付加モル数の違いにより鎖長が異なり、LD50値に著しい差がある。なお、旧分類で用いられていたウサギのLD50値として、E0 4~10では1,800~10,000 mg/kg 超であった (NITE初期リスク評価書 (2005)) 旨の記載があり区分4~区分外に相当するが、これらの値のみでは区分を特定できないため分類することができない。

急性毒性（吸入）:

区分に該当しない (分類対象外) (気体)

分類できない (蒸気)

分類できない (粉塵・ミスト)

動物への影響: データなし。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性:

区分2

人への影響: ボランティアに本物質を適用した複数の報告において、本物質による皮膚刺激性が報告されていることから、本物質はヒトに対して皮膚一次刺激性を示すと記載されている (NITE有害性評価書 (2007))。以上、ヒトにおいて一次刺激性を示すとの記載より、区分2とした。、動物への影響: ウサギを用いた皮膚刺激性試験においてE0 2~9の適用により、中等度から強度の刺激性を示したとの報告や、E0 10以上の原液の適用により無刺激性又は軽度の刺激性を示したとの報告がある (NITE有害性評価書 (2007)) が適用時間等の詳細は不明である。

眼に対する重篤な損傷性
又は眼刺激性:

区分2A

動物への影響: ウサギを用いた眼刺激性試験において、E0 2~15の原液の適用により中等度から強度の刺激性を示したと報告がある (NITE有害性評価書 (2007))。以上より、区分2Aとした。

呼吸器感作性:

分類できない

人への影響: データ不足のため分類できない。

安全データシート

SDS: 4655A

作成: 2023/07/28

改訂: 2025/7/3

製品名: ジーンキューブ® HQ MAI

皮膚感作性:

分類できない

人への影響: ボランティアに対するパッチテストの報告が複数あり、本物質 (EO 2) 10%の適用により感作性を示したとの報告や (NITE有害性評価書 (2007))、本物質 (EO 4又は9) では、少数例の感作性が認められている (NITE有害性評価書 (2007))、環境省リスク評価第5巻 (2006)) ことなどから、EO 10 以下の場合には皮膚感作性を示す可能性は高いと記載されている (NITE有害性評価書 (2007))。、動物への影響: モルモットを用いたマキシマイゼーション試験において、本物質 (EO 6) を適用した結果、感作性を示さなかったとの報告がある (NITE有害性評価書 (2007))。しかし、ヒト及び動物のいずれの報告も試験条件等の詳細が不明であるため、区分に用いるには十分ではないと判断し、分類できないとした。

生殖細胞変異原性:

分類できない

その他の変異原性 EOの付加モル数が9~12の本物質において、in vivoでは、マウスの優性致死試験、マウスの骨髄細胞を用いた小核試験で陰性 (NITE有害性評価書 (2007))、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性である (NITE有害性評価書 (2007)、NITE安全性試験結果 (Access on September 2016))。

発がん性:

分類できない

その他試験データ NPE (EO 4) を雌雄ラット又は雌雄イヌに 1,000 mg/kg/dayまで、またNPE (EO 9) を雄ラットに140 mg/kg/dayまで、雌雄イヌに88 mg/kg/dayまで、2年間混餌投与した発がん性試験において、いずれも用量に依存した発がんは認められなかった (NITE有害性評価書 (2005))。N-メチル-N'-ニトロ-N-ニトロソグアニジン (MNNG) を発がんイニシエーターとして用いたプロモーター試験において、雄ラットに MNNG 100 mg/LとNPE (EO付加モル数不明) 2,000 mg/L を含む飲料水を36週間経口投与した結果、腺胃腫瘍発生率がMNNG+対照群の8/13 (62%) に対し、MNNG+ NPE投与群では12/15 (80%) に、小腸腫瘍がMNNG+対照群の1/13 (7.7%) に対し、MNNG+ NPE投与群では7/15 (47%) に増加し、NPEには腫瘍促進作用があると結論された (NITE有害性評価書 (2005))。以上、NPE (EO 4) 及びNPE (EO 9) では発がん性はないと考えられるが、本物質はプロモーター作用を有する可能性が指摘されていることから、区分外とするにはデータ不足と判断し、本項は分類できないとした。

製品名: ジーンキューブ® HQ MAI

生殖毒性:

区分2

その他 E0の付加モル数9の本物質 (E0 9) を妊娠ラットに器官形成期 (妊娠6~15日)、又は全妊娠期間 (妊娠1~20日) に強制経口投与した発生毒性試験において、器官形成期投与では250 mg/kg/day以上で母動物に体重増加抑制及び同腹児数の減少、胎児に過剰肋骨の増加がみられたのに対し、全妊娠期間投与では500 mg/kg/dayの胎児に骨盤腔の拡張がみられたのみであった (NITE有害性評価書 (2007)、環境省リスク評価第5巻 (2006))。したがって、母動物毒性発現量で同腹児数の減少がみられたため、本項は区分2とした。

特定標的臓器毒性、単回ばく露:

分類できない

データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性、反復ばく露:

分類できない

ヒトに関する情報はない。、実験動物では、E0の付加モル数の異なる本物質についてラット、イヌを用いた複数の試験が実施されている。多くは区分2までの範囲内では肝臓重量増加がみられており、ラットを用いた混餌による90日間反復投与毒性試験において、区分2を超える用量で脂質沈着を伴う肝細胞変性、肝細胞の巣状壊死と腎尿細管の壊死等が認められている (NITE有害性評価書 (2007)、環境省リスク評価第5巻 (2006))。なお、E0 4、6、15、20、30のイヌを用いた混餌による90日間反復投与毒性試験において、E0 20についてのみ心筋の限局性壊死の報告がある (NITE有害性評価書 (2007)、環境省リスク評価第5巻 (2006))。この所見については、同一著者によるE0 9を用いたイヌの同様な試験、E0 4あるいはE0 9を用いた混餌によるより長期の試験 (2年間反復投与毒性試験) においても同様な所見がみられていない。また、同一著者によるラットを用いた同様の試験 (E04、6、15、20、30のラットを用いた混餌による90日間反復投与毒性試験) において認められていない。さらに、ラットを用いた複数の試験 (E0 4、9、40のラットを用いた試験) において同様な所見はみられていない (NITE有害性評価書 (2007)、環境省リスク評価第5巻 (2006))。以上より、心血管系への影響はE0 20を投与したイヌでのみみられ、ラットではみられていないことから、一般的な本物質 (E0 10程度) ではみられないと考えられ、標的臓器とするには適切ではないと考えられた。したがって、区分2の範囲内では分類根拠として十分な影響はないこと、他の経路の情報がないことなどから、分類できないとした。

誤えん有害性:

分類できない

人への影響: データ不足のため分類できない。

ジメチルスルホキシド

急性毒性 (経口):

区分に該当しない (区分外)

LD50: 14500~20000 mg/kg[ラット]

急性毒性 (経皮):

区分に該当しない (区分外)

LD50: 40000 mg/kg[ラット]

製品名: ジーンキューブ® HQ MAI

急性毒性（吸入）:	区分に該当しない（分類対象外）（気体） 分類できない（蒸気） 区分に該当しない（区分外）（粉塵・ミスト） LC50: > 5.33 mg/L[ラット]
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:	区分に該当しない（区分外） 動物への影響: OECD TG 404に準拠したウサギを用いた皮膚刺激性試験でごく軽度あるいは明らかな紅斑がみられたが、72時間後には全て消失した（SIDS (2008)、GESTIS (Access on September 2019)、REACH登録情報 (Access on November 2019)）。以上より、区分に該当しないとした。
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性:	区分に該当しない（区分外） 人への影響: 本物質は眼科領域において、点眼液の抗炎症成分又は溶媒として用いられ、10~30%では点眼しても影響はないが、50~90%であれば刺激を感じる（GESTIS (Access on September 2019)）。、動物への影響: OECD TG 405に準拠したウサギを用いた眼刺激性試験で、軽度~中等度の結膜に対する刺激性反応がみられたが、72時間後には全て消失した（SIDS (2008)、GESTIS (Access on September 2019)、REACH登録情報 (Access on November 2019)）。以上のヒト及び動物の知見より、区分に該当しないとした。
呼吸器感作性:	分類できない 人への影響: データ不足のため分類できない。
皮膚感作性:	区分に該当しない（区分外） 動物への影響: 本物質はOECD TG 406に準拠したモルモットを用いた皮膚感作性試験で陰性であり、ヒトでの感作性試験でも陰性であった（SIDS (2008)、GESTIS (Access on September 2019)）。OECD TG 429相当のマウス局所リンパ節試験（LLNA）においてSI値は3未満であり、陰性と判定された（REACH登録情報 (Access on November 2019)）。本物質はモルモットを用いた皮内投与による皮膚感作性試験で陰性であった（DFGOT vol.3 (1992)）。以上より、区分に該当しないとした。

製品名: ジーンキューブ® HQ MAI

生殖細胞変異原性:

分類できない

その他の変異原性 in vivoでは、腹腔内投与によるげっ歯類小核試験、優性致死試験及び姉妹染色分体交換試験（妊娠マウス骨髄及び胎児肝臓を含む）で陰性の報告がある（DFGOT vol.3 (1992)、SIDS (2008)、環境省リスク評価書第13巻 (2015)）。ラット骨髄染色体異常試験では陽性の報告があるが、細胞毒性に起因する可能性が指摘されている（DFGOT vol.3 (1992)、環境省リスク評価書第13巻 (2015)）。in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験、マウスリンフォーマ試験、遺伝子突然変異試験、不定期DNA合成試験で陰性の報告がある（NTP DB (Access on September 2019)、DFGOT vol.3 (1992)、SIDS (2008)、環境省リスク評価書第13巻 (2015)）。以上より、ガイドンスにおける分類できないに相当し、区分に該当しない。

発がん性:

分類できない

その他試験データ 国内外の分類機関による既存分類はない。利用可能なヒトを対象とした報告はない。ラット、イヌ、サル の長期間経口投与試験で、発がん性の証拠は認められていない（環境省リスク評価書第13巻 (2015)）。以上より、分類できないとした。

生殖毒性:

分類できない

その他 ラットを用いた強制経口投与による簡易生殖毒性試験（OECD TG 421）において、雌親で体重増加抑制、雄親で肝臓の絶対及び相対重量増加がみられる最高用量まで生殖能、児動物に影響はみられていない（SIDS (2008)）。雌ラットの妊娠6～15日に強制経口投与した発生毒性試験（OECD TG 414）において、5,000 mg/kg/dayという極めて高い用量で母動物に体重増加抑制、体重減少、摂餌量減少がみられ、同用量の胎児に母動物の体重増加抑制と関連したと考えられる体重減少がみられたほか、尿管拡張、肋骨の骨化遅延がみられている。また、胎児に用量依存性のない腎盂拡張がみられているが、催奇形性はみられていない（SIDS (2008)、環境省リスク評価書第13巻 (2015)）。雌ウサギの妊娠7～28日に強制経口投与した発生毒性試験（OECD TG 414）において、母動物に体重増加抑制がみられたが胎児に影響はみられていない（SIDS (2008)）。以上、ラットの簡易生殖毒性試験より、生殖影響はみられておらず、雌ラット及び雌ウサギの発生毒性試験より、発生影響はみられていない。しかし、ラットの簡易生殖毒性試験はスクリーニング試験であることからデータ不足のため分類できないとした。

製品名: ジーンキューブ® HQ MAI

特定標的臓器毒性、単回ばく露: 区分2(呼吸器)
ラットに本物質エアロゾル(注:SIDS Dossier(2008)にはエアロゾルと記載)を1,600 mg/m³(1.6 mg/L、区分2相当)で4時間単回吸入ばく露した結果、死亡例、毒性症状はみられなかったが、剖検で部分的な肺水腫がみられた(SIDS(2008))。原著者によって実施された更に高濃度(2,000~2,900 mg/m³)、長時間(24、40時間)のばく露でも同様の所見がみられた(SIDS(2008))。以上の実験動物での情報より、区分2(呼吸器)とした。

特定標的臓器毒性、反復ばく露: 区分に該当しない(区分外)
ラットを用いた13週間の吸入ばく露試験(6時間/日、7日/週)の結果、2.783 mg/L(区分2超)の雌で鼻道の呼吸上皮に偽腺形成、扁平上皮の過形成、嗅上皮で好酸性封入体の増加がみられたほかは投与に関連した影響はみられなかった(SIDS(2008)、環境省リスク評価書第13巻(2015))。ラットに本物質の50%水溶液を1~9 mL/kg(1,100~9,900 mg/kg/day)の濃度で78週間(5日/週)経口投与した結果、1 mL/kg(1,100 mg/kg/day、区分2超)以上で体重増加抑制、9 mL/kg(9,900 mg/kg/day、区分2超)の用量で軽度のヘモグロビン及びヘマトクリット値の減少、眼のレンズの屈折率に若干の変化がみられたほかは影響はみられなかった(SIDS(2008)、環境省リスク評価書第13巻(2015))。ウサギ、イヌ、ブタに経皮適用した試験で、区分2超の用量で眼のレンズの変化、皮膚反応等がみられた(SIDS(2008))。霊長類では本物質の眼への毒性に対する感受性は低く、ラット、ウサギ、イヌ、ブタでみられた眼への影響はヒトへの関連性はないと考えられる(SIDS(2008))。以上より、実験動物への吸入、経口、経皮ばく露において区分2の範囲までで影響は報告されていないことから、区分に該当しないとした。

誤えん有害性: 分類できない
人への影響: データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

製品

生態毒性	
急性毒性:	区分に該当しない(区分外)
慢性毒性:	区分に該当しない(区分外)
残留性・分解性:	情報なし
生体蓄積性:	情報なし
土壌中の移動性:	情報なし
オゾン層への有害性:	分類できない
他の有害影響:	情報なし

成分

製品名: ジーンキューブ® HQ MAI

データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物: 医療用廃棄物に関する規定に従って廃棄する。

1 4. 輸送上の注意

国内規制: 転倒、落下がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
包装・容器が破損しないように、水濡れや乱暴な取り扱いを避ける。
荷崩れしないように取り扱う。
2～8℃で輸送する。

輸送の特定の安全対策: 情報なし

1 5. 適用法令

化審法: 第2種特定化学物質(ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル), (旧) 第3種監視化学物質(ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル), 優先評価化学物質(ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル), 製造輸入量の届出を要しない物質(グリセリン)

PRTR法(化管法)(2023年施行): 非該当

安衛法: 非該当

毒劇法: 非該当

消防法: 非該当

海洋汚染防止法: 有害液体物質Y類物質(ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル), 有害液体物質Z類物質(グリセリン)

1 6. その他の情報

参考文献 【GHS分類方法】JIS Z 7252: 2019 「GHSに基づく化学物質等の分類方法」
社内データ
NITE-CHRIP (製品評価技術基盤機構)
職場のあんぜんサイト (厚生労働省)
RTECS (化学物質毒性データ総覧)
国際化学物質安全性カード
3E Insight (日報化学品法規情報センター)
化学大事典 (共立出版社)
14705の化学商品 (化学工業日報社)



安全データシート

SDS: 4655A
作成: 2023/07/28
改訂: 2025/7/3

製品名: ジーンキューブ® HQ MAI

制約事項

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の手扱いを対象としたものですので、特別の手扱いをする場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。記載内容は情報提供を主目的とするものであって、保証するものではありません。